頸部膿瘍症例手術時の気道確保困難度に関する後方視的検討

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	頸部膿瘍症例手術時の気道確保困難度に関する後方視的検討
倫理審査受付番号	第3663号
研究期間	2020年11月倫理審査承認日～2023年 3月31日
研究対象情報の取得期間	下記の期間に、当院の麻酔科・疼痛制御科と耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診された深頸部膿瘍の患者さん 2008年10月 1日～2020年 9月30日
研究に用いる試料・情報	カルテ情報
研究概要	(研究目的、意義)

周術期の麻酔管理は以前より安全になってきています。しかし、病気や各種要因で、呼吸のための気道が狭窄・圧迫・偏移すると、全身麻酔時の気道確保・気管挿管が困難となるリスクが伴います。今回、対象の疾患で過去に手術を受けた方について過去の記録を検討します。そして、今後に経験する気道確保が難しい患者さんへのより良い対応につなげることが目的です。

(研究の方法)

当院の手術センターで、2008年10月1日から2020年9月30日の12年間の期間に当科で麻酔管理を経験した深頸部膿瘍の患者さん(耳鼻咽喉科)を後方視的に集計します。該当した深頸部膿瘍症例のべ36例を用いてこれらの背景、要因、対応、予後を検討します。具体的な収集項目については、画像所見、術前の気道評価、麻酔導入時の対応、使用した気道確保器具、気道確保所要時間、術前麻酔リスク、術前合併症、術式、術後経過、転帰等を電子麻酔記録やカルテより抽出して検討を行います。

(個人情報の取り扱い)

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した(匿名化といいます)上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

**本研究に関する
連絡先**

兵庫医科大学病院 麻酔科・疼痛制御科
植木 隆介(研究責任者)
智多 昌哉(研究担当者)

TEL | (平日 8:30~16:45) 0798-45-6392
(上記時間以外) 0798-45-6111 (代表)